

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400153		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター北九州神幸	ユニット名	小文字
所在地	福岡県北九州市小倉北区神幸町3番29号		
自己評価作成日	平成23年7月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が明るく元気に入居者様に接している。  
 入居者様の個々の介護計画に沿った運動(リハビリ・歩行訓練等)を取り入れ、実施している。  
 ご家族との触れ合いを大事にさせていただく為に、ご家族も参加出来るレクリエーションを企画し、入居者様と共に楽しい思い出作りができるように心掛けている。  
 入居者様が安心・安全にホームで生活出来るように医療連携を図り、主治医や訪問看護との連絡を密に行っている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月5日	評価結果確定日	平成23年9月14日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ニチイケアセンター北九州神幸は、保育園や小学校が隣接する、閑静な住宅地に位置する2階建ての2ユニットのグループホームである。大規模法人に所属し、計画的な研修や、充実したマニュアル、コンプライアンスの徹底等、充実したノウハウの蓄積が、当事業所運営の随所に反映されている。社は「誠意、誇り、情熱」の他、理念「入居者様との和」、「ご家族との和」、「スタッフ同士の和」を掲げ、日々その実現に向けた支援を職員一丸となって行っている。都市部特有の地域連携が困難な環境にある中、花壇の花植えをひとつのきっかけとし、近隣住民と親睦を図ったり、隣接する保育園と連携して年間行事を組んだり、また日頃から入居者と一緒に近くのスーパーマーケットで買物をする等、無理のない形で少しずつ地域との関係作りを行っている。また運営推進会議では、家族の参加が多く見られ、情報発信、意見の収集に努めながら、開かれた事業所作りに努めていることがうかがえる。今後、地域に根付きながら、入居者とともに事業所の独自性が発揮されることを期待させる今後が楽しみな事業所である。

## サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社是」「経営理念」は入社時の研修にて学び、毎日の朝礼や申し送り時、また会議の時に唱和し、実践につなげている。	理念については、「誠意・誇り・情熱」からなる社是の他、7項目からなる職員の心得を記した「私たちの7つの心得」、さらには職員間で話し合い作成した「和」がある。毎朝礼時や会議時の唱和により、職員間で共有を図り、実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の保育園との交流があり、園児達の慰問や園に出向いたり、芋堀り等の合同行事を行っている。玄関前の花壇をきれいにしたことで、地域の方が関心を持ち、声掛けをしてくれたり、花壇に花を植えてくれたりして良い方向に行きつつある。	町内会には加入していないが、自治会長を通して、市報を始め、様々な情報提供を得ている。隣接の保育園とは、行事を始め、日常的に交流の機会がある。また玄関前の花壇を契機として、地域住民との交流が芽生え始めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症の方の理解をしていただくように働きかけようと、自治会長さんに運営推進会議への出席を呼びかけているが、参加してもらえない。せめて通りかかる地域の方たちへの挨拶と会話を心がけ、ホームにも足を運んでいただくように努めたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況、ホームの状況や運営について、隔月の運営推進会議で報告し、ご家族や包括支援センターと意見交換を行っている。	地域包括支援センター職員、家族、隣接の保育園園長の参加で、2ヶ月ごとに開催している。家族の参加者は多く見られる。運営状況や、行事、今後の活動について報告を行いながら、意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	毎回、地域の自治会長に参加案内を送付しており、今後も継続して働きかけを行う予定としている。少しずつ地域との関係性が広がりつつある状況であり、今後の展開に期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携を密にとっており、情報の共有・相談・意見交換を行っている。	地域包括支援センターとは、日頃から密に連携を取り、地域の情報を受け取ったり、事業所の現状報告を行っている。法人の規模が大きく、広範囲で多様な情報が得られる環境にある為、当事業所独自で、市町村に相談に行くことはない。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修やホーム内での勉強会で身体拘束について学び、身体拘束をしない介護を実践している。	職員は、研修や勉強会を通して、身体拘束について禁止の対象となる行為や弊害に関して学び、身体拘束をしないケアの実践に努めている。玄関の施錠については、安全面の配慮から、夜間帯のみ実施している。また帰宅願望の強い方に対しては、無闇に阻止することなく、「付き添う」支援を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やホーム内での勉強会で高齢者虐待防止を学び、虐待を「しない・させない・見逃さない」の視点で日々の介護に当たっている。		

福岡県 ニチケアセンター北九州神幸

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修やホームでの勉強会で権利擁護・成年後見人制度について学んでいる。必要性があれば活用できるよう支援している。	現在、制度利用者はいないが、権利擁護については、年間研修計画に位置づけ、内部研修を実施し、制度内容や、必要性についての周知が図られている。マニュアルについても、充実した内容のものが完備されている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書を必ず書面にてご家族に対して十分に説明し、理解を得た上で同意を得ている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。運営会議に於けるご家族からの意見や要望もホーム内の会議等で職員に伝え、運営に反映している。	運営推進会議や、定期的実施される行事には、家族の参加が多く、その機会を利用し、意見や要望の収集に努めている。また、必要に応じて、家族会を開催している。出された意見については、真摯に受け止め、会議等で職員に周知する等、運営に反映させている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議・ユニット会議においての職員の意見や提案を運営に反映させている。また、定期的に個人面談も行って意見の収集に努めている。	毎月1回の研修を兼ねた全体会議と、各ユニット会議において意見を出し合い、それを「アクティビティ計画書」や「研修業務ミーティングスケジュール表」として、管理者に提案、運営に反映させるというしくみを探っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	資格の取得・キャリアアップ制度にて職員の努力や実績が給与に反映するようになっており、各自が向上心を持って働ける職場環境になっている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢等による排除は行っていない。採用後も研修や資格を取得したり、キャリアアップ制度で各自が能力を發揮し、目標に向かって自己実現できるように取り組んでいる。	職員の採用については、ヘルパー2級資格者からの採用となっており、性別、年齢については問われていない。採用後も、研修や、キャリアアップ制度(独自の試験を行い給与面に反映させる)等を活用し、自己実現の権利保証に努めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修にて、人権教育を行っており、入居者一人ひとりの人権を尊重した介護に取り組んでいる。	年間研修計画の中に、人権にかかわる内容を盛り込み、より実践に即した教育・啓発を行っている。	

福岡県 ニチイケアセンター北九州神幸

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や社外研修へも希望者を募ったりして積極的に参加できるようシフトを組み、勉強できる環境作りに努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2度同業者と交流する場があり、それに管理者・ケアマネジャーが参加し、情報交換ができていますが、他の職員に関しては今後取り組んでいく必要がある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントはセンター方式を活用し、ご本人・ご家族からの要望や意見を取り入れ、安全で安心な生活を送れるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し、ご家族からの要望や意見を取り入れ、ご家族に安心していただけるような環境作りを行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人との面談、担当の介護支援専門員、ご家族からの情報等で、必要としている支援内容を把握した上で介護計画書を作成し、それに基づき対応をしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームが一つの家であり、入居者様と職員がお互いを理解しあえる家族のような関係を保つように努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族の関わりを大切にすると共に、協力して入居者様を支えるように連絡を密に取ったり、ご家族にも参加してもらえるようなレクリエーションを企画している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの大きな行事にご家族にも参加していただくように案内をしている。また、行きつけの美容室を利用するなど支援に努めている。	行きつけの美容院へは、継続して利用出来るよう支援している。家族や友人、知人との関係が途切れないよう、来訪時は、居室へ案内し、少しでも交友が深められるよう配慮している。	

福岡県 ニチケアセンター北九州神幸

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者様同士の関係を把握した上で座席を 考え、孤立しないようにしたり、出来る限り入 居者様全員が参加出来るようなレクリエー ションを行うなどの支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまでの関係性を大 切にする為、行事への参加の声掛けや、必 要に応じてご家族からの相談・支援に努め ている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	アセスメントのより入居者様の思いや希望を 把握し、支援を行っている。困難な場合は会 議等でその方が今、何を必要としているか を話し合い介護計画を作成している。	アセスメントは、センター方式を採用し、日常生 活支援ノートには、一人ひとりの思いや、暮らし 方の希望等が記載されている。その内容は、色 分けされ、変化の経過がたどれるようになってお り、日々の暮らしの中で、各々の経過把握に努め ていることがうかがえる。また困難な場合には、 家族から情報収集を行い、生活歴等を把握する とともに、会議で職員間で話し合いながら、より本 人本位の支援に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居時にご本人やご家族から情報収集を行 い、生活歴や暮らし方を把握しており、入居 後も毎日の生活の中から夫々の暮らしの経 過把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で心身の状態の様子観察 し、申し送りにて情報把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎月のユニット会議等で入居者様のカン ファレンスを行い、介護計画を作成してい る。ご家族とも情報交換を行って、ご家族の 意見等も介護計画書に反映している。	支援経過記録には、丁寧な記載が行われて おり、本人、家族の意見等を踏まえ、職員間で 話し合いを行いながら、現状に即した計画を作 成している。毎月のカンファレンス、3ヵ月毎の モニタリングを通じて、現状の確認、見直しにつ なげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や支援内容は個別的に記録と して残している。その内容情報は職員が把 握し、共有しながら実践、介護計画の見直し もやっている。		

福岡県 ニチイケアセンター北九州神幸

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、主治医以外の通院等の支援など柔軟に対応したり、定期的な歯科往診や医療連携体制による訪問看護により健康管理を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入っていない為、町内との関わりは持てないが、自治会長さんが毎月広報誌を届けてくれて、それを入居者様が読んでいます。また、花壇を通して町内の方との関係が良い方向になりつつある。隣接の保育園とは交流があり、入居者様は園児達との関わりを楽しみにしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後はホームの協力医に変わっていただくようにしているが、ご家族やご本人の希望によりこれまでのかかりつけ医を利用している方がいる。そのかかりつけ医やホームの協力医との情報交換を密に行い、適切な医療を受けられるように支援している。	大半の入居者は、2ヶ所ある協力医が、かかりつけ医となり、月1～2回の往診を受けている。その他の利用者については、家族等の協力を得ながら、定期的な受診を行い、本人の納得し、かつ適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制による訪問看護師に入居者様の状態や気づきを伝え相談し、入居者様が安全で安心な生活が出来るよう、また適切な受診等が受けられるよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に介護サマリーを送ると共に、医療連携室と病院関係者との情報交換や相談を行い、退院もスムーズに出来るよう密に連絡を取っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の体制や看取りに関する指針を説明し、同意を得ている。ご家族の意向に添う様になっている。	入居者の希望を尊重しながら、家族や医療関係者との話し合い、協力しながら対応する旨を記した同意書を作成。入居時に説明をし、同意を得ている。実際に、状態変化に応じて、関係者と話し合いながら、本人・家族の意向にそえるよう柔軟に対応している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時対応のマニュアルがあり社内研修やホームの勉強会でも確認をしている。自主消防訓練でも急変時への対応の指導を行っている。		

福岡県 ニチイケアセンター北九州神幸

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定した自主避難訓練を行っている。1回は必ず消防隊からの指導を受けており、ご家族や地域支援包括支援センター職員の参加も得られた。	年2回、定期的に訓練を実施している。内1回は、消防署の指導を受けながら、より実践的な内容で職員間で周知徹底を図っている。また運営推進会議でも取り上げ、家族や地域包括支援センターの訓練参加も見られる等、主体的に防災に取り組んでいる。	地域との協力体制の構築を課題と捉えており、現在、交流を図りながら、徐々に理解を求めている段階にある。運営推進会議の活用の充実も含め、その実現を期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないように社内研修やホームの勉強会で指導している。	本人・家族と相談し、生活歴等を踏まえながら、呼び方を始め、一人ひとりを尊重した支援に努めている。また個人情報の取り扱いについても、ファイル等は、施錠出来る戸棚に保管する等、コンプライアンスの徹底に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定が出来るような声掛けや働きかけを心掛けている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れに沿って支援しているが、その時々のご本人のペースに合わせて、外出や居室で過ごされるなど希望を取り入れた支援を行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を依頼している。また、ご家族と一緒に美容院に行かれる入居者様もいる。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、後片付けなどを職員と一緒にやっている。また、外食の機会を作ったり、時にはお弁当を頼んだりと楽しみな食事をもっと楽しくなるようにしている。	食事は、職員が、本社から届くカロリー計算された献立表を基に作っている。入居者は、職員と一緒に出来る範囲で、準備・片付けの役割を担っている。また誕生日会を始め、時に弁当を取ったり、外食に出掛ける等の機会を設け、より食事が楽しめる場面作りに努めている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社からのカロリー計算されたレシピを基に職員が工夫して調理をしている。入居者様の状態にあった食事形態にもしている。水分摂取はきちんと確保できるようにチェック表を用いている。		

福岡県 ニチケアセンター北九州神幸

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは出来る限りご本人にしていいただき、出来ないところを職員が介助し清潔を保持している。また、定期的に訪問歯科を利用し、歯や口腔内の治療や管理を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄状況・排泄パターンを把握し、定期的に排泄介助を行っている。出来る限りオムツをしない取り組みを心掛けている。	職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けしながら自立に向けた支援を行っている。日中、オムツ使用者は1名で、布パンツにパット使用、リハビリパンツ等を活用しながら、トイレでの排泄を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や水分摂取への取り組み、運動への参加などで便秘の予防をしている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を週3回、午後からと設定しているが、入居者様の希望や状況に応じて入浴やシャワー浴が出来るように支援している。	基本的な入浴日の設定はあるが、日曜日以外は毎日入浴準備を行っており、その日の体調や要望等により、臨機応変に柔軟な対応を行うことができる。石鹸等、個別に楽しむ利用者もあり、個々に添った支援を行っている。様式は個浴で、家庭的な雰囲気、安心安全な入浴となるよう努めている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況に応じて休息が取れるように支援している。また、夜間にゆっくりと眠れるように、日中にレクリエーションや運動を多く取り入れている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬について薬の説明書で確認・理解できるようにしている。また、薬剤師居宅管理指導を契約しており、薬の管理・指導をしていただいている。更に勉強会にて薬剤師より入居者様全員の薬の説明を受けている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存機能を生活の中で活かさせ、役割を持っていただくように掃除・洗濯物たたみをしていただいている。歌の好きな方にはレクリエーションの時に大いに発揮していただくように声掛けをしている。		



福岡県 ニチケアセンター北九州神幸

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物や散歩等、ご本人の希望に沿った支援をしている。また、ご家族も参加の外出も企画している。</p>	<p>一人ひとりの希望や、その日の体調、天候に応じて、散歩や、スーパーへの買物等、日常的な外出支援に努めている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人でのお金の管理はしていないが、外出時等でご本人が購入したい物をお小遣いの中から支払いをしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者様がご家族等に電話をしたり、手紙を書くことに希望があればその都度支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全室バリアフリーになっており、照明は間接照明を取り入れている。適度な温度調整を心がけており、空気清浄機も設置している。加湿器も季節によっては使用している。季節感活け花であったり、担当職員による壁紙・室内の飾り付けで心地よく過ごせるように工夫している。</p>	<p>居間兼食堂は、ゆったり過ごせるようソファが置かれ、畳のスペースも設けられている。対面式の食堂からは、調理風景が見られ、五感が食欲をそそり、生活感ある空間となっている。エレベーターも設置され、2階へも行けるようになっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>すべて個室であり、入居者様は自由にその居室で過ごすことができる。また、気の合った方たちが話しが出来るように座席を工夫している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には入居者様が慣れ親しんだ家具や寝具を入居時に持って来ていただき、ご本人が今までと同じ環境で過ごせるようにしていただいている。</p>	<p>各居室には、入居者が使い慣れた家具等が持ち込まれている。壁飾り等からも、「その人らしさ」が感じられ、本人本位の空間作りがなされていることがうかがえる。またベッドも持ち込み可能で、各自身体機能に合わせたベッドを使用している。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっており、入居者様が安全に出来る限り自律した生活が送れるようにしている。</p>		